

預金で育む地域の未来

～地方銀行における社会貢献型預金の取り組み～

業務部 瀬尾 和香奈

- 地元や社会のために何かしたいけれど、なかなか一步を踏み出せない・・・そんな思いを持っている人は多いのではないのでしょうか。
- 実は、地方銀行が取り扱う預金商品の中には、子ども支援や地域の活性化、地球温暖化対策などの社会貢献活動に取り組むことができるものがあるんです。
- 皆さんも、自分に身近な「預金」を使って、社会貢献の第一歩を踏み出してみませんか。

はじめに

問. あなたは、日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか。それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。（〇は1つ）

1. 思っている
2. あまり考えていない

これは、内閣府が毎年実施している「社会意識に関する世論調査」の設問です。あなたの答えはどちらですか？

2025年12月19日に公表された調査結果（速報版）^{※1}によると、社会のために役立ちたいと「思っている」との回答は62.2%だったそうです。これをみると、多くの日本人は、「社会のために役立ちたい=社会貢献したい」という思いを持っているといえるでしょう。

※1. <https://survey.gov-online.go.jp/202512/r07/r07-shakai/gairyaku.pdf>

一方で、グローバルに活動する慈善団体であるチャリティーズ・エイド財団が公表した2024年度版の世界寄付指

数（World Giving Index）^{※2}によると、日本は、人助け、寄付、ボランティアの実施度の総合評価で全142か国・地域中の141位となっています。これをみると、われわれ日本人は、社会貢献活動をあまり行っていないと評価されているようです。

※2. https://www.cafonline.org/docs/default-source/inside-giving/wgi/wgi_2024_report.pdf

この2つの相反する結果を踏まえると、日本人自身は社会のために役立ちたいと思っているものの、実際の行動にはなかなか繋がっていないのが実態のようです。しかし、実は、皆さんにとって最も身近な金融商品である「預金」を使って、寄付や社会貢献を行うことができるんです。

今回は、地域の子ども支援や地域の活性化、地球温暖化対策などの社会貢献活動に取り組むことができる預金商品を提供している地方銀行3行をご紹介します。

お金を預けて子どもを応援！～千葉興業銀行「ちばの笑顔を支える定期」～

千葉興業銀行は、「親切なパートナーとしてみなさまの幸せをともにデザインし続ける」という長期経営ビジョンを掲げ、地域金融機関だからこそ持ち得る信頼と情報・ネッ

銀行とお客さまの「思い」をともに満たす定期預金

千葉興業銀行は、地域に根差した金融機関として地方銀行ならではの社会貢献に取り組むたいと考えていました。また、お客さまとの日々の会話の中で、「寄付などの社会貢献には興味があるけれど、ハードルが高い」と考えているお客さまが多くいらっしゃるの思いも持っていました。

このような千葉興業銀行とお客さまの思いをともに叶える金融商品として、同行は、2024年12月～2025年3月の期間限定で、「ちばの笑顔を支える定期（スマイルプラス定期預金）」を発売しました。

トワークを活用することにより、金融に限らない様々なシーンにおいて、多くの「幸せ」をデザインすることに取り組んでいます。

「ちばの笑顔を支える定期（スマイルプラス定期預金）」は、預入金額の0.005%相当を千葉県社会福祉協議会の交通遺児援護基金に寄付するものです。交通遺児援護基金は、交通遺児世帯に対する見舞金等の交付や、子どもの健全な育成を支援するための「子ども食堂」、「学習支援」等の子どもの居場所づくりに取り組んでいる団体に対する助成を行っています。お客さまは、定期預金への預け入れを通じて、金銭的な負担なく、千葉県内の子ども支援活動に貢献することができるものとなっています。

この定期預金について、千葉興業銀行は、あまり大々的な広報・PR活動は行わなかったといいます。また、預入方法も店頭のみで、ATMやインターネットバンキングでは受け付けていませんでした。しかし、寄付や社会貢献に対するお客さまの関心が予想以上に高く、募集期間は4か月弱であったにもかかわらず、総額で約122億円の預金が集まり、2025年6月、千葉県社会福祉協議会に約60万円の寄付を行っています。



(出典) <https://www.chibakogyo-bank.co.jp/news/topics/assets/2991.pdf>

お客さまの声を踏まえてバージョンアップ！第2弾発売中！

千葉興業銀行は、多くのお客さまが「ちばの笑顔を支える定期（スマイルプラス定期預金）」に預け入れいただいたことを踏まえ、2025年12月8日～2026年5月1日の

間、「ちばの笑顔を支える定期 第2弾（スマイルプラス定期預金2）」を発売しています。

商品名＜愛称＞	ちばの笑顔を支える定期 第2弾（スマイルプラス定期預金2）
対象となるお客さま	個人のお客さま
取扱期間	2025年12月8日（月）～2026年5月1日（金）
預入方法	店頭のみ（ATM・インターネットバンキングでの預け入れは不可）
預入期間	1年（自動継続型）
預け入れ	【預入金額】50万円以上（1円単位） 【寄付金の取り扱い】預入額の0.005%相当を千葉県社会福祉協議会に寄付（お客さまの負担はない）

(出典) https://www.chibakogyo-bank.co.jp/kojin/campaign/202512_1/

基本的な商品性は、第1弾とほぼ同様ですが、「寄付に繋がるのなら、もっと預け入れしたい！」というお客さまの声を踏まえ、預け入れの上限金額（1,000万円以内）を撤廃するとともに、預入原資について、新たな資金に加えて第1弾の満期金も受け入れることとしています。

お客さまからは、「寄付を自分で行うのはなかなか難しいが、信頼性と透明性がある銀行を通じて、手間をかけることなく地域に貢献できることが魅力的」、「千葉県の子どもの未来に役立ててもらえて、大きな意義を感じている」といった声が寄せられているといいます。

千葉の子どもたちの「幸せ」実現を目指して

千葉興業銀行は、「ちばの笑顔を支える定期（スマイルプラス定期預金）」の他にも、Bリーグ千葉ジェッツふなばしへの寄付を通じて、同チームの社会貢献活動をサポートする「GO! JETS! 応援定期」や、「食品ロスの削減」と「困窮者への食品支援」に取り組んでいるフードバ

ンクちばに寄付を行う「サステナブル定期預金」など、様々な社会貢献型預金を取り扱っています。

千葉興業銀行の担当者は、「こうした社会貢献型預金により、千葉の子どもたちを含む多くの方々の『幸せ』を実現するためのサポートをしていきたい」としています。

ふるさと納税と連携して地域の未来を創る！～鳥取銀行「故郷とっとり応援定期預金」～

鳥取銀行は、人口減少、少子高齢化、後継者不在率の高さ、事業所数の減少などの社会課題に直面している地域が存続していくためには、未来を担う世代が安心して暮らせるまちを創ることや、雇用の場を守ることが必要であると

の考えのもと、「地域社会の未来を『創る』『守る』『支える』」というパーパスを制定し、地域の価値向上に向けた取り組みを行っています。

全国初！預金の利息でふるさと納税

2015年3月、鳥取銀行は、「故郷とっとり応援定期預金」の取り扱いを開始しました。この定期預金は、預金利息の中から毎年1万円ずつ、鳥取県にふるさと納税を行うもので、預け入れいただいているお客さまに、毎年魅力的

な「お礼の品」が届くという商品です。鳥取銀行によると、このような定期預金とふるさと納税を組み合わせた商品は珍しく、同行での取り扱いが全国初ではないかとのこと。

商品名＜愛称＞	故郷とっとり応援定期預金
対象となるお客さま	とっとり砂丘大山支店で口座開設をいただいた鳥取県外居住の方で、「ふるさと納税制度」を活用し鳥取県を応援してくださる個人の方（鳥取県外居住の方のみの商品）
取扱期間	通年
取扱店等	とっとり砂丘大山支店（インターネット支店）
預入期間	1年（単利型）※自動継続（利払式のみ）の取り扱い
預け入れ	【預入金額】一口あたり500万円 【預入限度額】お一人さま何口でも申込可能 【寄付金引落】定期預金の預け入れまたは満期時、寄付金1万円を代表口座より自動引落 ※寄付金の税額控除手続きは預金者自身で行う必要があります。

(出典) https://www.tottoribank.co.jp/net_store/shouhin/furusato/index.html

全国各地から寄せられる鳥取への想い

鳥取銀行は、「就職等で都会へ行ってしまっても、地元鳥取を応援してほしい」と考え、県内の支店等ではあえて「故郷とっとり応援定期預金」を取り扱わず、インターネット支店である「とっとり砂丘大山支店」だけの取り扱いとしています。また、預入金額も、「一口あたり500万円」に設定されており、お客さまには相応の金額を用意いただくことが必要となりますが、実際に取り扱いを開始してみると、地元出身者のみならず、鳥取とは縁も所縁もない多くの方から預金が寄せられ、これまでの寄付額は、累計で6,200万円に達しているといいます。

童図書の購入など、子どもたちが本に親しめる環境づくりのために活用されているほか、ジュニア・スポーツ選手の発掘・強化、中学校や県立高校の部活動への外部指導者の招聘など、ジュニア・スポーツの支援にも活用されています。子どもたちからは、「いただいた寄付金のおかげで、外部指導者の方から専門的な指導を受けることができました」、「私たちが毎日楽しく、安心して部活動に取り組むことができるのは、家族や鳥取をふるさととする多くの方々を支えていただいているおかげです」、「応援してくださる地域の皆様や学校の仲間、指導者、家族に一生懸命プレーする姿勢をお見せすることで恩返ししたい」といった喜びの声が寄せられています。

寄付は、鳥取県「こども未来基金」に対して行われます。同基金は、図書館への児童図書コーナーの設置、新刊の児

「お礼の品」で地元企業と一緒に恩返し

ふるさと納税を行うと、「お礼の品」を貰えることは皆さんご存じですよね。「故郷とっとり応援定期預金」も同様で、梨・水産物・乳製品・肉・卵かけご飯・ワインの6コースから、自分の好きなものを選ぶことができます。これらの「お礼の品」は、鳥取銀行が、取引のある地元のふるさと納税パートナー企業に声掛けして提供してもらって

おり、その際、独自のプレミアムも付けてもらっているとのことです。パートナー企業からは、「全国の人に自分たちの商品を届けることができ、ありがたい」といった声があり、また、お客さまからも「おいしかったから、ECサイトで自分でも申し込んだ」といった声が聞かれるといいます。

<p>【梨コース】たにがみ農園(鳥取市) 取扱期間限定 毎年6月～8月末</p> <p>鳥取県内でも標高の高い佐治町で栽培された爽やかな甘さの鳥取ブランド、二十世紀梨をお届けします。</p> <p>https://tanigami-nouen.jp</p> 	<p>【賀露水産物コース】株式会社中村商店(鳥取市)</p> <p>白イカ、ハタハタ、岩牡蠣など、旬にこだわり、新鮮な鳥取の海の幸をお届けします。</p> <p>https://www.matsubagani.jp/</p> 
<p>【乳製品コース】大山乳業農業協同組合(琴浦町)</p> <p>純白の牛乳一滴一滴にまごころを含め、酪農家の心をそのままお届けする、新鮮・安全・安心な美味しい製品をお届けします。</p> <p>https://dainyu.or.jp/</p> 	<p>【肉コース】鳥取県畜産農業協同組合(鳥取市)</p> <p>循環型畜産産業を実践し、鳥取の大地ですくすくと育った、安心・安全な鳥取F1牛のお肉をお届けします。</p> <p>https://torichiku.or.jp/</p> 
<p>【卵かけご飯コース】有限会社ひよこカンパニー(八頭町)</p> <p>鳥取で平飼された鶏の卵「天美卵」と鳥取産有機米こしひかりをお届けします。※有機米こしひかりは数に限りがございます。特別栽培減農薬こしひかりに変更させていただきます。ご迷惑がございません。</p> <p>https://www.oenosato.com/</p> 	<p>【ワインコース】北条ワイン醸造所(北栄町)</p> <p>地元北条砂丘で栽培したブドウを使った赤ワイン(ミディアム)、白ワイン(やや辛口)と、とっとり二十世紀梨わいんをお届けします。</p> <p>https://hojowine.jp/</p> 

(出典) https://www.tottoribank.co.jp/net_store/shouhin/furusato/img/furusato_teiki202509.pdf

鳥取の未来に向けて

「故郷とっとり応援定期預金」は、定期預金とふるさと納税を組み合わせた商品であったため、取扱開始にあたっては、鳥取県庁との事前協議・相談を綿密に行いました。また、「お礼の品」を提供いただく企業の選定・依頼だけでなく、「お礼の品」の発送作業等も鳥取銀行が行っているため、例えば、お客さまが不在の場合にお礼の品が銀行に戻ってきてしまうといった、ふるさと納税ならではの悩みもあります。しかし、鳥取銀行は、「鳥取を応援したい」というお客さまの思いを叶えるとともに、「お礼の品」を

通じて地元企業にも貢献したいという思いから、「故郷とっとり応援定期預金」を取り扱っているとのこと。

鳥取銀行の担当者は、「『故郷とっとり応援定期預金』は、地域とともにある地方銀行ならではの取り組みであると考えている。今後も、地域の子供たち、企業に貢献でき、また、鳥取を応援したいと考えている全国の方々の思いに応えることができるこの商品を続けていきたい」としています。

預金をつかって環境問題を解決！～七十七銀行「77オープン型グリーン外貨定期預金」～

宮城県に本店がある七十七銀行は、2020年7月に「七十七グループのSDGs宣言」を策定・公表しました。その中で、①地域経済の活性化、②地球温暖化・気候変動への対

応、③一人ひとりの活躍支援、④ガバナンスの高度化の4項目を重点課題としています。

七十七銀行「77オープン型グリーン外貨定期預金」

2023年4月、七十七銀行は、SDGs宣言で掲げた重要課題の1つである「地球温暖化・気候変動への対応」に寄与するため、お客さまから預け入れのあった外貨(米ドル)預金相当額を、国内外の環境改善に資する投融資のみに利用する「77オープン型グリーン外貨定期預金」の取り扱いを開始しました。

グリーン外貨定期預金の取扱開始にあたり、七十七銀行

は、調達した資金の使途や投融資への充当状況のモニタリング方法を定める「グリーン外貨預金・フレームワーク」を策定しています。また、同預金が環境保全にふさわしい企業に投資されているかについて、格付投資情報センター(R&I)による第三者評価を受けるなど、透明性の高い仕組みで運用しています。

商品名<愛称>	77オープン型グリーン外貨定期預金
対象通貨	米ドル
対象となるお客さま	個人・法人
最低預入金額	100,000米ドル
預入期間	6か月、1年
預金相当額の資金使途	以下を満たす国内外の新規投融資、または既存投融資(以下、適格投融資)に充当 ①再生可能エネルギー(太陽光発電、風力発電など) ②エネルギー効率(建築断熱材、省エネ設備など) ③クリーン輸送(電気自動車、公共交通、鉄道、マルチモーダル輸送など) ④グリーンビルディング(一定の環境性能基準を満たした建物の建設など)
開示(レポート)	【適格投融資への充当状況】以下の項目を年1回以上、ホームページで開示するとともに、第三者評価期間によるレビューを実施 ①グリーン外貨預金残高 ②充当したプロジェクトの内容と投融資残高 ③未充当金額 【インパクト】二酸化炭素の削減(見込)効果を年1回以上、ホームページで開示

(出典) <https://www.77bank.co.jp/tameru/gaika/green.html>

預金を原資に約750世帯分の二酸化炭素を削減

2025年12月末時点で、グリーン外貨定期預金の残高は約5億円となっています。SDGsや環境問題に関心があり、海外とも継続的な取引関係を有している地域企業からの預け入れが多いといいます。お客さまからは「当面は使う予定がない外貨を社会的に意義のある取り組みに役立てることができてよかった」との声が寄せられています。

グリーン外貨定期預金の預金相当額は、現在、東北地方の太陽光発電プロジェクトに充当されており、年間で約2,700トンの二酸化炭素の排出量削減に繋がったとしています。日本の標準的な家庭(1世帯)の二酸化炭素の年間排出量が約3.6トンといわれていますので、約2,700トンは、約

750世帯分(2,689.6トン÷3.6トン≒750)の二酸化炭素排出量を削減したことになります。

なお、七十七銀行は、2025年9月1日～30日までの1か月間、「77J-クレジット預金」も発売していました。この預金は、法人のお客さまを対象に、1年間の満期日時点での元本5,000万円に対して二酸化炭素排出量5トン分に相当するJ-クレジットを付与するもので、預金者は、自社努力では削減できなかった二酸化炭素排出量を相殺すること(カーボンオフセット)が可能となります。七十七銀行の担当者は、地域企業における地球温暖化・気候変動への問題意識は引き続き高いとしています。

🌿 J-クレジット制度とは？

省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO2等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO2の吸収量を「クレジット」として国が認証するもの。

クレジット創出者は、省エネルギー対策の実施によるランニングコストの低減、クレジット売却益、地球温暖化対策への積極的な取組みに対するPR効果等のメリットがある一方、クレジット購入者（活用者）も、カーボンオフセット等が可能。

(出典) <https://japancredit.go.jp/about/outline/>



東北の企業が世界の環境問題を解決することを目指して

現在、グリーン外貨定期預金の預金相当額は、地元のプロジェクトに充当されていますが、環境問題への対応は世界的な課題です。東北地方の各地には、環境関連の優れた技術を有する企業が数多く存在しており、例えば、アスファルトの耐久性を向上させる技術や、プラスチックなどを分解して炭素化する高度な技術などは、主に新興国の社会インフラの整備等に活用されることが期待されます。

七十七銀行の担当者は、「当行が、優れた技術を有する企

業に資金を提供するだけでなく、大学や自治体を巻き込み、三位一体となって企業をサポートできるような体制を整えていきたい。そして、ゆくゆくは東南アジアをはじめとした新興国の環境問題を解決できる技術を持った東北地方の企業が、世界に羽ばたくための原資として利用されるよう、「グリーン外貨定期預金を拡大していきたい」としています。

おわりに

いかがでしたか？お金を預けて利息を受け取りながら、地域や社会に貢献することができる地方銀行の社会貢献型預金の魅力を少しはお分かりいただけただけでしょうか。

今回ご紹介した3行以外にも、社会貢献型預金を取り扱っている地方銀行はありますし、預金以外にも、地域や社会に貢献するための様々な取り組みを地方銀行は行っています。そのような取り組みの一端は、過去の地銀協レポート[※]をご参照ください。

※例えば、「地域の豊かな自然を守る地方銀行」（地銀協レポートvol.18：https://www.chiginkyo.or.jp/association/report/assets/rbareport_vol18_all.pdf）など。

もし、あなたが「地元や社会のために何かしたいけれど、なかなか一歩を踏み出せない」と思っているのなら、お近くの地方銀行の取り組みをチェックしてみてください。あなたの思いを叶えてくれる金融商品が見つかるかもしれません。

地方銀行は、これからも、金融商品・サービスの提供等を通じて、1人でも多くの方を笑顔にできるよう取り組んでまいります！

こちらのレポートはいかがでしたか？ぜひ、ご意見・ご感想をお聞かせください！ ▶▶▶

クリック

or

